

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 国語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">・授業にはおおむね真面目に取り組んでいる。5分読書にも毎時間集中して取り組む様子が見られる。・発表や話し合いの活動には意欲的に取り組む生徒が多く、基本の発表の仕方も習得している。聞き取りテストでは、単純な記憶問題は解答できるが、思考力を要する問題は解答できない生徒が多く、問題慣れしていない様子が見られる。・「書く」の問題では、作文などに苦手意識をもつ生徒が多い。基本的な言語事項は、文法や古典は苦手な傾向があるが、漢字は得意とする生徒が多い。
児童・生徒の学力向上を図るための調査	<ul style="list-style-type: none">・意識調査では、国語の授業が「分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた生徒の割合が計90%以上であった。理由として、「教え方が丁寧」(76%)「意見を出し合ったりする授業が多い」(53%)が多かった。また、「読書が好き」と答えた生徒は33%だが、読書時間は「30分未満」が一番多く、52%だった。・教科の内容では、国語 A(知識)では、都平均に比べ、どの観点も約3~5%下回る正答率である。とくに「書く」「話す・聞く」の正答率が低い。国語 B(活用)でも、やはり都平均に比べ、どの観点も約1~7%下回るものの、「言語についての知識・理解・技能」だけは0.6%上回った。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・読書は好きだが、日常生活で読書の時間を捻出できていない現状がある。きっかけさえあれば、読書により積極的になれると思われる。
- ・「分かりやすい授業」を目指し、さらなる工夫をする必要がある。「意見を出し合う」等の活動が生徒にとっても有効と思われるので、発表や話し合い等、対話的な活動を今後も意識して取り入れていく。
- ・「書く」では、模範となる文に触れたり、取り組みやすいテーマの作文を扱う等して、苦手意識をなくし、作文に取り組む機会を増やす必要がある。
- ・「聞く」では、真面目に聞こうとする姿勢はあるものの、問題慣れしていないために問題の意図をくみ取れず正答できない傾向があるので、演習の機会を増やす必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
読書活動の推進 見通しと振り返りの定着 多様な授業形態や教材の工夫 「話す・聞く」「書く」活動の充実	<ul style="list-style-type: none">・5分読書の継続・学校図書館の連携とともに、ブックトークやビブリオバトルを導入し、対話的な読書活動を行い、読書への意欲喚起を目指す。・主体的で分かりやすい授業のために、単元や毎時間のねらいを明示、生徒自身に見通しをもたせる。また、毎時間、復習や振り返りの時間を設定する。・一問一答式の授業だけでなく、グループでの活動や発表を取り入れ、互いにより考えを深められるような授業形態を考える。また、ICTによる視覚的な教材や資料提示の工夫を行い、学習意欲を高めるきっかけとする。・聞き取り練習や作文を書く機会を増やし、問題に慣れ、苦手意識を減らすとともに、能力の育成を図る。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 社会】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	授業では、発問に対して積極的に答えようとする生徒が多い。授業規律はほぼできている。自分の考えを言葉でまとめて文章にすることが苦手な生徒が多いようで、考えずに答えを求めてしまうことがある。グループ活動においても、意見を出し合いながら考えを深めるという意識はもっていない。
児童・生徒の 学力向上を図 るための調査	社会について「よく分かる」「どちらかといえばよく分かる」と答えた生徒は学年の約80%であった。しかし、正答率は都の平均よりも少し下回っている。特に資料を読み取る技能の問題での正答率が低いという結果が出ている。歴史分野の知識の定着がまだ甘いということも分かった。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・既習の基礎的、基本的語句や内容の理解、定着を図るため、家庭学習を充実させる必要がある。
- ・適切な資料を収集、選択し読み取る力を伸長させる必要がある。
- ・自らの意見を持ち、表現する力の向上が必要である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎基本の定着のための家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none">・随時、復習ワーク等を用い、基本的な内容について反復し定着を図る。・短時間でも取り組める学習課題を設定する。・取り組み状況をノート回収等により確認し、評価する。・定期テストにおいて、基本的な内容の定着を確認する。
資料を読み取る力の育成	<ul style="list-style-type: none">・様々な資料に接する機会を増やす。・資料の種類や特徴、読み取り方法等、基本的な知識と技能を習得させる。・適切な資料を選択し、内容を的確に読み取り発表する場面を設ける。・読み取った内容をお互いに意見交換することにより、多面的な見方、考え方ができるよう指導する。
表現力の向上	<ul style="list-style-type: none">・主体的に考え、その意見をまとめる時間を設ける。・教員が作成した文章の例などに自らの考えを当てはめ、文や言葉にすることに慣れさせる。・ペアワークやグループワークなど、他人に表現する機会を増やす。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 数学】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	日頃の家庭学習が不足している。授業内では、内容を理解しようという姿勢が見られるが、家庭学習の時間が不足しているせいで復習されないため、定着しない。授業内では理解していてもその後の定着が進まず、特に前年度に学習した内容を活用する課題などは、苦手な傾向にある。
児童・生徒の学力向上を図るための調査	平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」より、関心・意欲・態度は都平均よりも高い81.8%であったが、取り出す力47.2%や読み取る力45.8%と都平均よりも低い結果になった。すぐに答えを見てしまい、じっくりと考えて自分で解答を導き出す力が少し足りないというのが本校生徒の現状である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・基礎計算力は身に付いていると考えられる。
- ・表やグラフの問題などの読み解く力に課題がある。
- ・家庭学習の習慣化が必要である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
授業規律の確立と学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none">・ 授業で理解したものをきちんと復習させ知識の定着を図る。・ 反復練習による家庭学習の徹底。分かる授業を行うため、補助教材やICTを利用した教材の作成・研究を進める。・ 規則正しい生活習慣の確立、授業内・朝学習等による反復練習を徹底する。
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">・ 毎時間、習熟度による個人指導の徹底(知識・理解、技能・考え方)・ 特に生徒の苦手分野（基準量・比較量・割合など）においては、関係する内容を学習するたびに復習する。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 理科】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業には集中して取りくみ、発言も多いが、発言をする生徒が決まってきている。授業中は理解できているが、知識が定着していない生徒が多い。既習事項を基に思考すること、実験結果から考察につなげることが苦手な生徒が多い。発表の際に考えを言葉に表すことが苦手な生徒が多い。実験器具の取扱いについては、おおむね満足できる。
児童・生徒の学力向上を図るための調査	<ul style="list-style-type: none">アンケートでは「授業の内容がよく分かる・どちらかといえば分かる」の合計が85%と比較的高い数値が出ているが、正答率が低いことから、知識の定着ができていない生徒が多い。読み取る力を問う問題の正答率が低いことから、問われていることを把握することが苦手な生徒が多い。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

学習習慣や基礎学力が定着していないため、それらの既習事項を活用することが十分にできていない。実験結果を適切に処理する力、結果から考察する力、自分の言葉で表現する力が十分でない。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none">各章ごとに、知識定着のための小テストの実施。
思考力の育成	<ul style="list-style-type: none">実験後に考察する時間を十分にとる。定期考査で記述問題やグラフなどの結果から読み取る問題を出題する。実験や観察後にレポートを作成する。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 音楽】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	多くの生徒が授業における規律やルールを守り、意欲的に取り組んでいる。全体表現の方法をどのように工夫すればよいのか、迷っているようである。一方で授業を楽しみに来ている生徒が多く、実技面では個人それぞれ実力を付けてきている。しかし音程が不安定になる等、まだ個人差はあると感じているが、全体指導を繰り返し行うことで解消できることと考えている。器楽面においては、興味をもって取り組んでいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域・分野に応じて、様々な指導を行っているが個人差がある。例えば歌唱においては、声の響きを感じ取ることや双方の声を聴きながら音程を合わせていくことが、あまり身に付いていない。音楽を表現することの理解が不十分であることが課題である。また、鑑賞では、曲想のイメージを感じ取って聴くことができていないため、描写音楽を中心に鑑賞を進めていくことが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本、 技能の向上	<ul style="list-style-type: none">発声練習を充実させ、豊かで力強い声で歌えるよう発展的な技能を身に付けさせる。合唱を通して、お互いに学び、表現の工夫を共通理解し、高め合う姿勢を作る。
表現の工夫	<ul style="list-style-type: none">歌詞を声に出して読み、「歌詞」と「旋律」の関連性を感じ取る。歌詞の意味を理解することで、語りかけるような歌唱へつなげられるようにする。より高度で豊かな表現ができるよう、さまざまなアプローチで音楽的要素の定着を図る。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 美術】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">新たな課題に対して習得した技法を使って意欲的に取り組んでいる。美術の広がりや美的体験が身に付いていない生徒がおり、想像力を十分に引き出せていない面が見られる。作業の進み具合の個人差が大きく、授業外での制作を必要とする生徒がいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 与えられた課題に対して、自己の想像力を働かせて美的に表現しようとする習慣が身に付いていない。豊かな表現力は、自らの発見において定着できるものであることを体験的に理解させることが課題である。
- 課題解決に対する見通しをもたせる取組を行い、目標をもって主体的に取り組もうとする態度を習慣化させるとともに、美的体験に基づく個性としての表現力を身に付けさせることが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT の活用	<ul style="list-style-type: none">効果的な表現方法が理解できるように、個に応じた制作のポイントをタブレットの活用で映像や画像を例示し、視覚的に把握させる。
見通しと 振り返りの工夫	<ul style="list-style-type: none">課題作品の主題をワークシートにフィードバックさせて、記録、スケッチさせることを通して、自分の良さを見付け、人との違いを認めさせ、個性としての表現力を身に付けさせる。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生男子】 【教科 保健体育】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足していたり、あるいは未経験であったりする生徒が見られる。特に、球技に関する経験が不足している。中でも、空間認知能力、捕る、投げるなどの動作を苦手とする生徒が多い。
東京都統一 体力テスト	全ての種目で全国平均値を下回っており、(握力は 2.3 kg、上体起こしは 2.1 回、長座体前屈は 3.7 cm、反復横とびは 2.8 回、持久走は 8.6 秒、50m 走は 0.1 秒、立ち幅とびは 11.3 cm、ハンドボール投げは 1.6m 下回っている)、特に立ち幅とび、長座体前屈が大いに下回っている傾向にある。50m 走は東京都平均と同じであり、全国平均に近い数値である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 保健体育の授業での運動についての思考力・判断力では、教え合いを通じた言語活動を苦手とする生徒が多い。授業内でのグループ活動内の話し合いの機会を増やすなど、自らの考えを様々な場面でアウトプットできる生徒が少ないのが課題である。また、関心・意欲・態度の観点で見ると、苦手な分野に積極的にチャレンジをしない生徒が多い。
- 体力テストの結果が全種目で全国平均を下回っており、特に立ち幅とびの瞬発力を向上させるとともに、体全体を使って跳ぶことを意識させる必要がある。また、長座体前屈は全身の柔軟性を高めていく必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
授業規律の確立	・ 毎授業、ICT機器を活用して授業規律を明示する。
体力・学力の向上	・ 各体力要因についての理解と各自の実態把握、毎時間の補強運動を実施する。 ・ 各競技の特性に応じた準備運動やコーディネーショントレーニングを取り入れる。
基礎基本、 技能の向上	・ 学習カードによる言語活動の充実により、思考力・判断力・表現力等を養う。 ・ 技能差に応じた課題設定と運動の特性理解と反復練習等による基礎基本、技能の向上の定着を図る。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生女子】 【教科 保健体育】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足していたり、あるいは未経験であったりする生徒が見られる。特に、球技に関する経験が不足している。中でも、空間認知能力、捕る、投げるなどの動作を苦手とする生徒が多い。
東京都統一 体力テスト	体力テストの結果で、全国の平均値を下回った種目(握力 21.5kg、長座体前屈 42.4cm、立ち幅跳び 160.4cm)の記録の向上が課題である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域、単元、種目をバランス良く学習させ、それぞれがもつ特性を十分に味わうとともに、自己の能力を高めるための方策等を考えさせる。定期テストでは二極化が進んでいる。特に自分の言葉で説明する問題に関しては無回答者もあり、日頃から学習カードを活用し考えを記入する機会を増やし言語活動の充実を図りたい。そして日頃から体を動かす機会や関心をもたせることが課題となる。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
体力・学力の向上	<ul style="list-style-type: none">各競技の特性に応じた準備運動やコーディネーショントレーニングを取り入れる。各体力要因についての理解と各自の実態把握、毎時間の補強運動の実施。
基礎・基本、 技能の向上	<ul style="list-style-type: none">学習カードによる言語活動の充実により、思考力・判断力を養う。技能差に応じた課題設定と運動の特性理解と反復練習等による基礎・基本、技能の向上の定着。毎回の授業の中で補強運動(動きを持続する能力、巧みな動きを高める運動を中心に行う)を行い、体づくり運動の体力を高める運動と他の単元とを関連させて指導することで、体力や運動能力の向上を図る。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 技術】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">・聞く態度も良く、積極的で発言が多い。男女間の仲も良く、活発な学習の取り組みが見られる。・授業では理解していても知識の定着が不十分なために、定期考査でミスをする生徒がいる。ノートやワークシートなどの記入内容（学習の記録）に差があることが原因と思われる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

授業での発言も多く学習に対する意欲も感じられる一方で、学習内容の理解が定期考査の結果につながっていないところがある。見通しをもつことができる授業展開と基礎・基本の定着の工夫を図り、学習内容の記録を取る習慣を身に付けることが必要である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
作業形態の工夫	<ul style="list-style-type: none">・作業中の助け合いはもちろん、準備や片付けも含めて4人班の小規模班で役割分担を明確にして協力をすることで、お互いがスキルアップできる学習環境を築く。
ICT 機器の利用 知識の定着	<ul style="list-style-type: none">・授業の始めにプレゼンテーションソフトを使用し、学習のねらいや授業内容をより明確に知らせ、授業の見通しをもたせる。作業動画を視聴させることで興味・関心をもたせ、理解の定着を図る。ノートへの記録がしやすいように、プレゼンテーションのスライドに工夫をする。
作業の視覚化 教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">・生徒が興味・関心を抱く実用的な教材を選定する。また道具や工具の扱いや動画の視聴をすることで作業の見通しをもたせ、製作経験の不足を補う。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】【教科 家庭】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">ほとんどの生徒が授業における規律を守り、意欲的に取り組んでいる。ものづくりの好きな生徒が多く、意欲的に作業している。しかし、小学校で学習した技能が身に付いていない生徒もあり、実習作業の工程に個人差が出てしまう。課題に対しては、説明をしっかりと聞き、よく考えることができる生徒と自分だけで取り組むことが難しい生徒との差はある。また、集中力や意欲や技能に課題がある生徒もいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

実習作業への関心・意欲は高いが、作品づくりの技能には個人差があるため、進度に差が付きやすい。話の聞き方や集中力の工夫により改善できることを理解させる必要がある。実習作業の苦手な生徒に対しては、特に手助けとアドバイスを行い、やる気を持続させることが必要である。失敗をそのままにせず工夫することで成功にもっていくことができることを学ばせていくことも課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">実習作業において、まず、説明を集中してしっかりと聞き、分からないことはそのままにせず、積極的に質問をする習慣を付けさせていく。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">利用頻度が高く、比較的つくりやすいバッグの制作をする。ICT機器を用いたり、実物を提示したりして授業を行い、学習内容の確認と定着を心がける。
主体的・対話的で深い学びの工夫	<ul style="list-style-type: none">既習事項や実生活での体験を踏まえ、よりよく生活するための方法を考え、グループでの意見交換や発表をし合うことで、自分の生活を振り返り、実生活に生かせる力を付けさせる。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 2年生】 【教科 英語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	授業では、話す活動であるペア活動・発表には、積極的に取り組む生徒が多い。授業規律はほぼできている。書く活動に関してはまだ力がついていない生徒が多い。家庭学習の習慣が身に付いていない生徒もいる。
児童・生徒の学力向上を図るための調査	外国語理解の能力を試す問題で、問2-(3)の正答率が低いものの、問2-(1)(2)及び、問3(1)(2)(3)の正答率は、74%以上あり、英語を聞いて理解する力は高いといえる。一方で、外国語表現の能力を試す問4・問6の正答率が低く、書く力に課題がある。他に、正答率の低い問題は、問5、問9(1)、問10、問12-(3)、問13であった。長文を理解し、必要な情報を正確に取り出したり、比較・関連付けて読み取ったり、本文の意図や背景を理解・推論して解決する力が低いのが現状であるといえる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

話す活動では、積極的に取り組む生徒が多く、英語学習に対しての意欲は感じられる。しかし、英文をしっかりと理解し、問われた問いに対して正しく答えるための読む力・書く力の向上が課題である。また、生徒の英語学習に対してモチベーションを上げる工夫も必要である。生徒参加型の授業を展開するための帯活動的な普段の授業の取組も課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本の徹底した授業	<ul style="list-style-type: none">授業内で学習事項の内容理解と理解した内容を徹底的に音読し、ある程度まで授業内で定着させる時間を、様々な参加型の活動を通してもつ。こうすれば、生徒は、ある程度定着した状態で、楽に家庭学習に取り組むことができる。
分かりやすい授業	<ul style="list-style-type: none">理解できない生徒が放置されないように、理解していない生徒がいれば、適宜、その場で日本語の簡潔な解説を加えるなどする。生徒がペア活動を行っている間の、机間指導中に、理解できていない生徒をケアする。
生徒の好きな言語活動を中心とした授業	<ul style="list-style-type: none">本校の生徒の特性を考えれば、「英語でもっと話せるようになりたい」という気持ちが、生徒を主体的な家庭学習に導くと考える。授業内で生徒が好む「運用（言語活動）の時間」も十分にとり、モチベーションを上げる。ペアワークやグループワークを通じて、基礎的な英語を用いて、自分の日常生活での身近なことを英語で表現できるような取組を授業で行っていく。